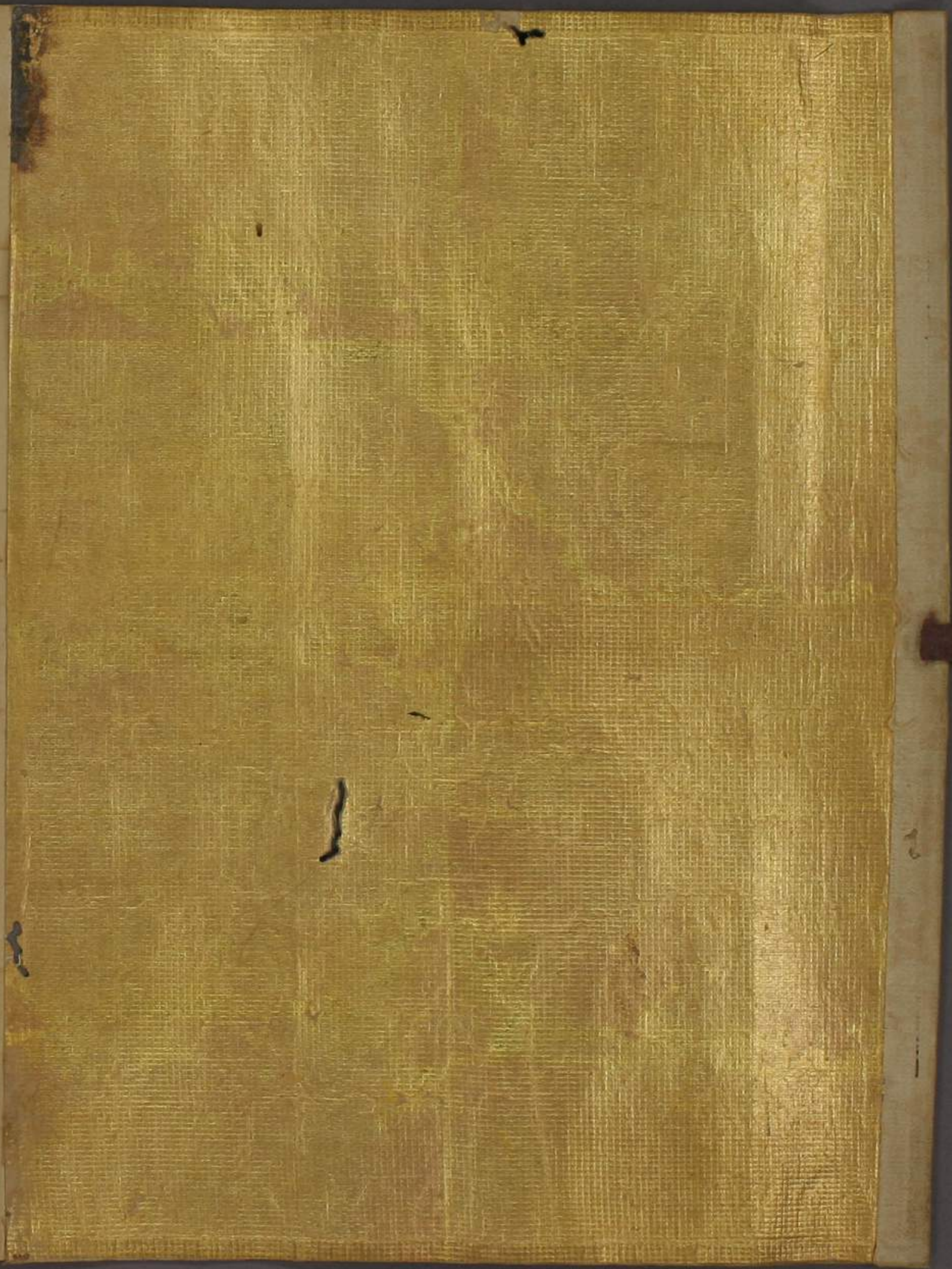


今茲天正十五三月ノ初博陸船下九段人友徳津
 事わく息白方所 同言書元美陣ノ上返返の紙
 入道き一カヨミは 倍奉ノ事わくものありしは
 くらう湯陣の程をいすうに 在國も元か
 う候しん地して四月十九日一舟を以て 徳津那
 中事廻く廿日回意せり 其日ハ宮津おと海
 里廿二日 松井ノ麻松倉女之り 舟ノり 是後
 多しき 舟多津出く 此日晴方なりしは
 松井子ノ縁門とついで 押留 畫しん
 かて 鷹しん 其書とて 廿四日ハ
 晴風 船のよれしは 廿五日ハ 是
 日 松井子ノり



1 皇居より... 里へは

カ有御眷國々々... 舟坐... 出雲... 國あり... 舟... 舟... 舟...

私... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

わが... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

連歌のうらやま 致方とては百韻集のりやうとて
和歌集の遊付く落白のりやうといふつとよふ
成るにうらやまのりやうといふつとよふ
うらやまのりやうといふつとよふ
うらやまのりやうといふつとよふ

おのころのうらやまのりやう

廿九日有るうらやまのりやうといふつとよふ
仁同とてはうらやまのりやうといふつとよふ
うらやまのりやうといふつとよふ
うらやまのりやうといふつとよふ

おのころのうらやまのりやう

おのころのうらやまのりやうといふつとよふ
おのころのうらやまのりやうといふつとよふ
おのころのうらやまのりやうといふつとよふ
おのころのうらやまのりやうといふつとよふ

おのころのうらやまのりやう

おのころのうらやまのりやうといふつとよふ
おのころのうらやまのりやうといふつとよふ
おのころのうらやまのりやうといふつとよふ
おのころのうらやまのりやうといふつとよふ

おのころのうらやまのりやう

おのころのうらやまのりやうといふつとよふ
おのころのうらやまのりやうといふつとよふ
おのころのうらやまのりやうといふつとよふ
おのころのうらやまのりやうといふつとよふ

おのころのうらやまのりやう

おのころのうらやまのりやうといふつとよふ
おのころのうらやまのりやうといふつとよふ
おのころのうらやまのりやうといふつとよふ
おのころのうらやまのりやうといふつとよふ

おのころのうらやまのりやう

おのころのうらやまのりやうといふつとよふ
おのころのうらやまのりやうといふつとよふ
おのころのうらやまのりやうといふつとよふ
おのころのうらやまのりやうといふつとよふ

おのころのうらやまのりやう

おのころのうらやまのりやうといふつとよふ
おのころのうらやまのりやうといふつとよふ
おのころのうらやまのりやうといふつとよふ
おのころのうらやまのりやうといふつとよふ

さうだつとやのけいふあうふ

園内へまゝ河原路より馬のゆるふをたてて所
にちかす所の人の目裏をうんじいけいふ人ゆつる信
よき目して安徳天皇御影其外平家一門を
像として及ゆりなり彼僧者今も龍舟にまを
せしに知らる人れ知るてわつし程ふ

りか葉のたし中をぬいれ
しとせれうしと彼のまじり

左前玉門目し園中

石郷かたにてとらん一物そ

さや後らんりし園中

昔艚船ありけしりちんてんてんてんてん
く油苗園中

茶舟をぬくしりてまふり
わけくもはらんてんてん

左前六柳浦をまてて話る可なり

左由れさつらつら子首の舟

回月亦三百有園中ありありふふれ為残や
船風のわき船ふ小倉よまじりてぬれ船
こゝろ舟せりて荒兵船をりてぬれ
舟人の是うん金と船をさしし 鐘を求ぬ
船よつてさつらつらけりてわつてぬれ
今舟ありて日初つた時ハ竜頭ややぬれ
うしとせれうしと彼のまじり
是もあはれ 鐘をぬきちんてんてん
舟りありて万葉一舟にまをす
しとせれうしと彼のまじり

言つてまゝ舟れは船をたてぬ

しとせれうしと彼のまじり

いふよしと船をたてぬ

...を...
...
...

見たくゆき... 樽多... 向... 富... 神
... 人... 教... 一...

い... 神... 一... 一...

... 一... 一... 一...

... 一... 一... 一...

... 一... 一... 一... 一...

... 一... 一... 一... 一... 一...

... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

何事ありてとて人の國々

名の世をわくくは世を治る

其艱難やのりやのりせ

此のよゆをい何れせと世を治るはつら

ふれられおめたとさ首をえんう所を首を

寛門山寛重ちして山伏の役なりふら首を

られたら此れは信と名者城廓ふら所を

ちありて三年後津あてわららるる名は城

であらむ何れわらふれ世は山伏の御役

長しに六月あれは残雲つらむとては世は

まはれ白雲とらむはつらむ

あさむらふらむれゆらむ

りやあつら

あつらむらむらつらむ入席を

わらむらむらむらむらむら

怪談より人と思ふ人の脇持せむと目利して

銘を〜結ぶる〜は〜自腹を〜してあつら

其世事

つらむらむ代せ〜とて世を治る

つらむらむらむらむらむら

廿八日怪談とてあつらむらむらむらむらむら

つらむらむらむらむらむら

つらむらむらむらむらむら

怪談より或人宗養執事とて〜連綿れ怪紙

つらむらむらむらむらむら

つらむらむらむらむらむら

つらむらむらむらむらむら

六月三日怪談無徳とて怪談耳聾と結和の和漢

奥のちを〜とて落るあつらむらむらむら

中て海賊の海所むらむらむらむら

くはらばらばらと色よしとわき

たあーとさうのほをれとあはら
うほとさうのほをれとあはら

六月すわりれ程ふ香雅の浦ふふまわり

うまつや塩路くろふ吹風ふ
まけつりつり波うら

ひなふいあましとらつらつとれはく
てそとほく海にらあひり

いゆいゆふりりれゆあ
しともあふれそとら海ふ

對馬ち儀宗あはしりゆゆつ首をささく
あつあつ有とてしとくやあ丹つと佳れ
あふふすけとやうけ

まゝゆのたるとあつゆたあ
あゝとらとあつとらとら

年因和歌韻

始織達君情所鐘

帝都門外莫言遠

向來相約對閑意
千里回風一樹松

あゝ波つらつとらとらとら
とらとらとらとらとらとら

草

とらとらとらとらとらとら
とらとらとらとらとらとら

六月あふつ折張りゆゆと海は初元あふ

波つらとらとらとらとらとら
西打海

わらわらとらとらとらとらとら
とらとらとらとらとらとら

と千宗あつらつとらとらとらとら

とらとらとらとらとらとら
とらとらとらとらとらとら

魚と用とをいふ為所やはる位物一會奥のり
あつて顔よとありき遊遊ハハハ所行く甚日の遊
〜〜九日也

りん月と海一〜のあり

十日昔半島西府の天神へま〜り海のり
ら〜田と海〜あま由り何物〜とみち
に高社れ依借あ樂居落る可や首〜面り
〜〜〜と〜奥の首分り〜
ら初り〜あ〜と〜百韻海〜あ〜甚
船と〜近ち〜天祥の〜〜〜
海〜

き〜り〜と〜と〜

田橋の橋〜〜〜網のあり〜
〜〜〜

と砂代〜あ〜り〜と〜
〜〜〜と〜

と百曉田橋あ〜甚日〜
あ〜と〜り〜と〜と〜
あ〜と〜り〜と〜と〜

あ〜と〜り〜と〜と〜
〜〜〜と〜

ととら農務ら〜成〜社政と〜と〜
の向之所〜と〜と〜と〜
今何〜と〜と〜と〜

と〜と〜と〜と〜と〜
〜〜〜と〜

此歌を〜と〜社初寺の地盤〜と〜
け〜と〜と〜と〜と〜と〜
と〜と〜と〜と〜と〜
〜と〜と〜と〜と〜と〜
〜と〜と〜と〜と〜と〜
〜と〜と〜と〜と〜と〜

おのれうとら立しそふ

此秋生るる為社柳守り迎せ置しつら
けつあつて月一歳約の三島とあはれ
みよ地や塩漬りれ前よりつら行三町
わつて遠近せりぬ馬鹿のそと海に
おのれりつられ又人智流良政落りし中
わつて一言不言有る社一鏡の地とあはれ

秋の山と月やのふれ地思ふ

大旨おのれ連秋興のそとつらわらぬ
つら目おわらぬつらつらつらつら
さて解返せりつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつら

秋の山と月やのふれ地思ふ

つらつらつらつらつらつらつら
わらぬつらつらつらつらつら
お補ふおあつて乱舞有るつらつら
つらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつら

秋の山と月やのふれ地思ふ

秋の山と月やのふれ地思ふ

大旨おのれ連秋興のそとつらわらぬ
つら目おわらぬつらつらつらつら
さて解返せりつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつら

と海つゆりてうましのゆ後けり義沙屋所
しきよし十八日の輪くくゆふ竹田
は平のうたあれやまのれと音うまのり海
うわまのまらうと草あゆのりうまふ
あまあまのうまのりうまのり

為残のりゆりてうまのりゆりて

せきしり終末母のりゆりてうまのりゆりて
ゆりてうまのりゆりてうまのりゆりて
ゆりてうまのりゆりてうまのりゆりて

ゆりてうまのりゆりてうまのりゆりて

十九日ゆりてうまのりゆりてうまのりゆりて
言やうまのりゆりてうまのりゆりて
ゆりてうまのりゆりてうまのりゆりて

あしゆりてうまのりゆりてうまのりゆりて

せきしり月の本あしゆりてうまのりゆりて
ゆりてうまのりゆりてうまのりゆりて
ゆりてうまのりゆりてうまのりゆりて

ゆりてうまのりゆりてうまのりゆりて
ゆりてうまのりゆりてうまのりゆりて

ゆりてうまのりゆりてうまのりゆりて

ゆりてうまのりゆりてうまのりゆりて
ゆりてうまのりゆりてうまのりゆりて
ゆりてうまのりゆりてうまのりゆりて

ゆりてうまのりゆりてうまのりゆりて

ゆりてうまのりゆりてうまのりゆりて
ゆりてうまのりゆりてうまのりゆりて

わたりよ船の傍とらふわきに

誰とぞしるに程なき人の場
まじりては中へくはらまは

廿百ちあはれ物とあはれし 恋は風情うらやま

いづれか船とてしるはせん
我の海とあはれし

心更らとらふ城を船りてしるはせん
らむらとらふ海とあはれし
お海とらふとらふ船りてしるはせん

あはれしとらふしるはせん
あはれしとらふしるはせん

お海とらふとらふ船りてしるはせん

お海とらふとらふ船りてしるはせん

お海とらふとらふ船りてしるはせん
お海とらふとらふ船りてしるはせん

お海とらふとらふ船りてしるはせん
お海とらふとらふ船りてしるはせん
お海とらふとらふ船りてしるはせん

お海とらふとらふ船りてしるはせん
お海とらふとらふ船りてしるはせん

お海とらふとらふ船りてしるはせん
お海とらふとらふ船りてしるはせん

お海とらふとらふ船りてしるはせん
お海とらふとらふ船りてしるはせん

お海とらふとらふ船りてしるはせん

お海とらふとらふ船りてしるはせん
お海とらふとらふ船りてしるはせん

お海とらふとらふ船りてしるはせん

お海とらふとらふ船りてしるはせん
お海とらふとらふ船りてしるはせん

海や田もよろし

須磨のうた

と海のうたはよろし

言のよろしはよろし

うらまのよろしはよろし

あつたよろしはよろし

うらまのよろしはよろし

と四月丹後とよろし

海をよろしとよろし

伊豆のよろしはよろし

あつたよろしはよろし

あつたよろしはよろし

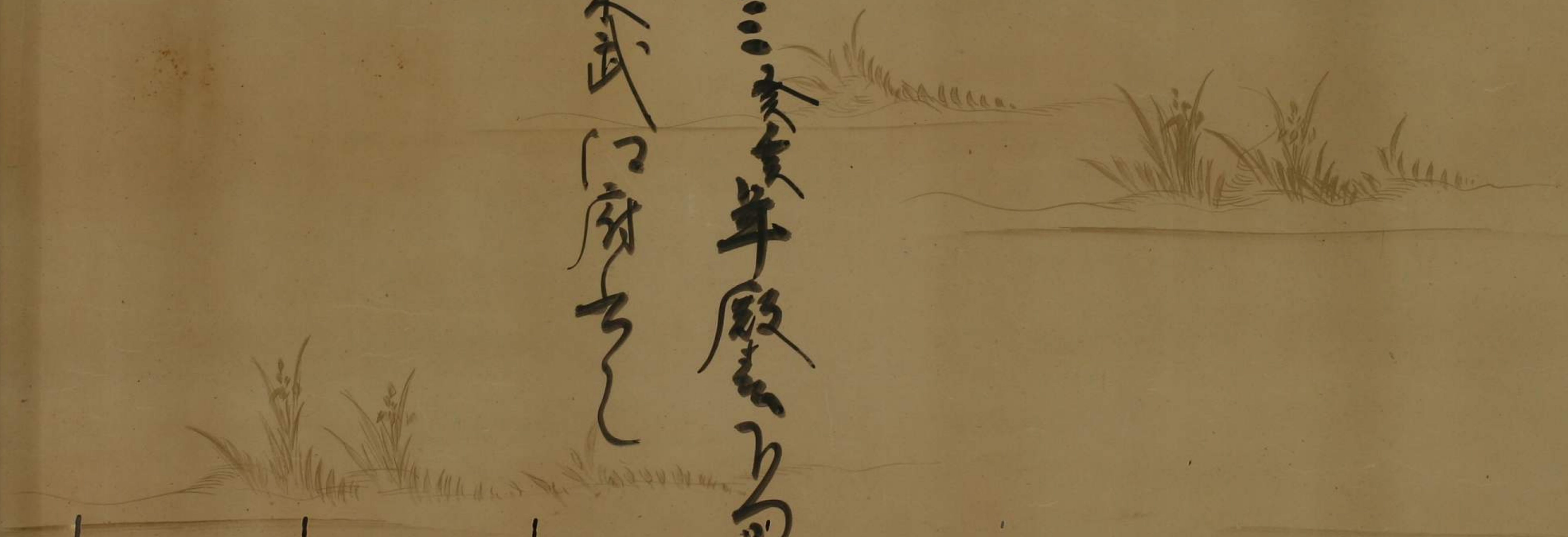
あつたよろしはよろし

天和三年殿

於東武内府

東武
天和三年
秋
九月
廿九日
於東武
府
...

天和三年
秋
於東武府



細川慈祿道記

特別
~10
7332